八代市立幼稚園規模適正化等審議会 第６回会議　会議録

開催年月日	令和３年１１月２４日（水）
開催場所	千丁支所　大会議室
開催時間	午後２時００分～午後４時００分
出席委員	有田委員　　宮﨑委員　　徳田委員 森委員　　岡田委員　　桑原委員 岩坂委員　　山本委員
事務局	中部長　　橋口次長　　福本次長 髙嶋学校教育課長　　加賀審議員　　早瀬課長補佐　　有働指導主事
傍聴者	なし
議事案件	・答申案について

【内容】

１　答申案について

（１）事務局より説明（答申案について）

（２）質疑応答及び審議

①「はじめに」

委員：「はじめに」の部分で何かあるか。

（特に意見なし）

②「現状について」

委員：「現状について」は以前説明いただいたもので記述してある。質問等あるか。

委員：これについては、以前話し合ったので確認でよいのではないか。

③「方向性について」

委員：子供ファーストで考えた審議という方向で話し合ったところである。これでよいか。

委員：はい。

④「在り方等について（１）」

委員：幼稚園教育の在り方についてはどうか。

委員：これについても、このとおりだと思う。

委員：他の方もこれでよいか。（はい。）

一定数、幼稚園を希望される方がいると確認した。

⑤「在り方等について（２）」

委員：保護者ニーズに対応し、「選ばれる幼稚園」を目指した幼稚園経営の在り方や地域や家庭支援の在り方についてはどうか。

委員：この件についてよいか。事務局に伺う。「インクルーシブ教育」について分かりやすく説明していただきたい。

事務局：「インクルーシブ教育」とは教育用語で使われるが、障がいのある子供、障がいのない子供が一緒に交わって人間関係をつくり、仲間づくりをしながら学んでいくという教育である。特別支援教育の充実においては、相互理解が大切になる。子供に合った適切な学びに加えて、子供たち同士がつながりの中で育っていくことを大切にするという教育である。

委員：障がいの有無に関わらず一緒に学ぶということであるが、「インクルーシブ教育」は専門用語であるので、表現の説明を入れるのか、括弧で入れるのか。

事務局：かみ砕いた文章表現に直すということも可能である。「インクルーシブ教育」という言葉が以前の審議の中で出たので、注釈を入れてもよい。

委員：どちらがよいか。注釈を入れるか、インクルーシブ教育という表現を使わずに表現するか。この文章に合って簡潔に表現できるのはどちらか。

委員：分かりやすい方がよい。どの人にでも分かるようにした方がよい。

委員：しかし、これは答申であって、市民に広報や説明をするものではない。教育長が分かればよい。

委員：委員が言われたとおりでよいと思う。

事務局：ご指摘ありがとうございます。教育委員会が受け取る分はこのままでよい。今後計画を作っていく場合は、市民の方に分かりやすい注釈を付ける等していきたい。

委員：よろしくお願いします。

委員：２行目について、「夏季休業中」とあるが、「長期休業中」でなく、夏季休業中だけでよかったか。冬や春はないということか。

委員：夏季休業中の預かりについて以前話し合った。それ以外の休業期間については話していないのでこの表現であると思う。

委員：「預かり保育」の実施を引き続き要望する、２行目に「夏季休業中の預かり保育も同様」とあるが、保護者のニーズに対応するとなると、引き続き要望というよりも、預かり保育時間の延長をぜひお願いしたい。また、夏季休業中だけでなく、冬、春など長期休業中なども保護者のニーズである。この文章であると、今行っていることを続けていくとなっている。預かり保育の延長にあたっては、５行目に「子供たちの心身の負担にならないように」と書いてあるが、今の延長保育を続けていては園児は集まらないと思う。もっと具体的に、「預かり保育の延長と長期休業中の預かり保育を実施すべきではないか」と明記すべきではないかと考える。

委員：今のは保護者の要望である。幼稚園の先生方からすればとても厳しくなってくる。その点についてはどうか。

委員：今年初めて夏季休業中の預かり保育を行った。保護者からは、春休みなども実施してほしいという話も出ている。あとは、教育委員会がどのように人を配置するかであるので、私たちが言うべきことではない。教育委員会が幼稚園児を増やすために必要と考えたら、そこを考慮していただいて、どのように職員を配置したらよいかということを考えていただく。〇〇委員からあったように、夏休みだけ定時の午後２時３０分までの預かりだった。普段は午後３時４０分まで行っているが、夏休みは午後２時３０分までだったので、利用される方にとっては不便であった。そこも含めて保護者の方が言われるのも分かる。そこは、考えていかなければならないことだと思う。園長会でも夏休みだけでなく、春や冬も必要なのではないかという話も出ているが、このままの体制でできるかというと難しい。特に４月は家庭訪問がある。時間に関しては子供ファーストで検討していかなければならない。個人的には午後３時４０分は短いと思う。そこも含めて、保護者のニーズ、子供の様子、職員体制を総合的に教育委員会で考えていただければと思う。

委員：３行目以降の表記に今の話題について含みを持たせてあると解釈している。今の意見を受けて、「例えば、保育時間の延長、預かり期間の延長、それに伴う体制の再構築」ということが入っているとよいのではないか。今の表現では漠然としている。具体的に入れるとよい。これを視野に入れて総合的に判断するという表現にするとよいのではないか。

委員：できる、できないは別として、答申に書いたことで１００％するというわけでなく、委員の要望として書いておくのはよいのではないか。

委員：保護者のニーズとすれば、預かってほしいという意見だと思うが、審議会の答申として書いてよいか。預かり保育を要望するということは書いてある。具体的に書くというのもどの程度というのが難しいと思う。体制のところから書いておかなければならないということになる。

事務局：預かり保育の時間の延長、長期休業中の預かりについて意見がありましたら、意見を反映したように書いていく。

委員：今の意見を反映した文章にするということでよいか。

事務局：現状として預かり保育、夏季休業中の預かり保育を実施した。更に保護者のニーズがあるということに対して検討してほしいということを書いた上で、なお、いろいろなことを考えてやってほしいというつながりにしていくとよいと考えた。

委員：今のようでいかがか。

委員：はい。預かり保育の更なる延長と長期休暇中の預かり保育も検討してほしいということを入れていただきたい。

委員：今の要望が叶えば、幼稚園も希望者が増えるのではないか。
委員：そうなると体制や人員配置も考える必要がある。
委員：教育の質の向上となると、人員を割く必要がある。
委員：幼稚園は、園児数が減ってきたということで預かり保育をしようとなった。幼稚園としては加配で担当職員を入れてほしいと要望していたが、それは財政的にも難しいということなので、今いる職員でできる１時間程度の預かり保育に収まっている。４月は家庭訪問があるので、４月は預かり保育は実施できない。担任と園長、合わせて４人でしている。園長も週に１回は必ず預かり保育に入る。他市を見ても預かり保育担当の職員がいるところが多い。保護者も預かり保育が必要と考える。園児が減ると幼児教育もできない。そこを教育委員会で考えていただいて幼稚園を残していただきたい。
委員：今のように要望があることを文章に入れていただきたい。子供ファーストで、幼児の心身の負担にならない時間や、発達段階に応じた適切な方法、人員の加配や配置などは（私たちには分からないが）どうしたらよいか。
事務局：書きぶりは、今おっしゃったことを盛り込んでいく。体制については、私たちも精一杯頑張っていかなければならないところである。〇〇委員がおっしゃったように１００％実現できるとは限らないが、要望が出たという書きぶりにしていく。
委員：では、ここの部分はこのようにしていただきたい。

⑥「在り方等について（３）」
委員：６ページでは何かあるか。集団の在り方についてこの前話し合った内容である。
委員：最後の方で、「適正な集団をつくるために再編を考えていく必要があると考える。」とある。具体的には統廃合のことを言っているのか。気になったのは、統廃合を考えていく必要があるとは話し合ったが、前のページにあるように適正な園児を集めるために保護者ニーズに対応していけばいいような気がする。順番として、まず、選ばれる幼稚園を目指した幼稚園経営をやって、それでだめだったら統廃合になると考えていた。同時にするのか。
委員：「再編を」を「再編も」に変えれば、断定的でないのでよいのではないか。「を」とするとそっちに行くとなるが、「も」にすれば若干柔らかくなる。
委員：今の意見であると、その前の文章の「地域の実情等も」を「地域の実情等を」にするとよいのでないか。
委員：保護者ニーズに対応すれば、園児数は多くなると思うか。
委員：全体的に保育園傾向なので、これを打ち出したからすぐ幼稚園となるのは難しいのではないか。何年かかかって口コミなどで広がっていって、幼稚園を選択となるのではないか。それまでの数年をどう維持するか。なかなか保護者の意識を変えるのはすぐにはいかない。

委員：少子化は世の中の流れで、だんだん子供が少なくなっている。
委員：ましてや今コロナで出生率が下がっている。この出生率が下がった時期に生まれた子供たちがあと３～４年で入園となる。そのころにどう出るか。
委員：再編を考えるというのは必要な文言だと思う。
委員：下から４行目。「現在のシステムでの存続は難しく」とあるがこのシステムというのは、何を指しているのか。今の保育時間なのか、園の数なのか。
事務局：現在の状況、今のままだと存続は難しい。減っていく一方で厳しいということを述べている。
委員：今の幼稚園の数や運営状況全体の事を示しているのですね。
委員：「システム」というところを変えた方がよいということか。
委員：話の流れで行くと、後に再編の話が出てくるので、幼稚園の数かと思った。「つまり」となると、再編をしなければいけない。だから「再編も」になるのか。
委員：「を」でなければ「も」で少しでも柔らかくと思った。全体的なことではないか。先生たちの働き方とか、人数とか、給与体系とか、いろいろなものが複雑に絡んでくると思う。もちろん、幼稚園の園児の数も関係するだろうし、それが現状ということではないか。
委員：今の話を聞いて、先ほどの「地域の実情等を勘案し、八代市立幼稚園の再編も考えていく」にするとよいと思った。
委員：〇〇委員の言われることも分かる。文章に書かれていることについては、納得がいく。（３）の「幼稚園教育の目的を十分に果たすために必要な集団の在り方」については、審議があった上での内容である。システムの話があったが、このままでもよいのではないか。「存続」とあるが、この言葉はよかったら、「上記のような望ましい人数の確保を目指し」というような柔らかい言葉にしていただきたい。それを達成するために統廃合が一つの選択肢になるという考え方になると思う。そこへの猶予期間の有無は、私たちが考えることではない。そこは教育委員会で勘案されるところだと思うので、落としどころとして、「再編も」になるのではないか。
委員：ここに書いてあることは、皆様納得していただけるか。（はい。）望ましい集団は、３歳児は何人、４歳児は何人と確保しないと幼稚園教育ができないので、幼稚園の再編も考えていく必要があるというのは、前回の審議でまとまったことである。今のところで意見はあるか。
事務局：今いただいた意見については、文面が固まらないので、会長と相談して文案を作成し、また各委員に送付するという形でよろしいか。
委員：そのようにしていただきたい。

⑦「おわりに」
委員：終わりにの部分はどうか。

委員：子供ファーストの視点が明記してあるのでよいのではないか。これが究極の目標である。

委員：終わりにの部分はこのようにしていただく。先ほど事務局からあったように、会長、副会長と事務局で検討する。

事務局：文面を作って見ていただき、文書でご意見を伺う形になる。